



ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)

# 2017年度 活動報告

2017.4.1 - 2018.3.31



# **VISION**

# 人こそが 人を支援できる ということ

ピースボート災害ボランティアセンターは、 被災地での災害支援活動や 災害に強い社会作りに取組む非営利団体です。 誰しもが、自然災害に遭遇する可能性があります。 国や地域を越えて、

すべての人々が互いに助け合える社会を創ることが、 困難に立ち向かう力になると信じています。

## **CONTENTS**

国内外の災害支援

災害に見舞われた地域の回復のために、多様 な支援者と共に、被災者のニーズに合わせた 支援活動を展開しています。

防災・減災への取り組み

**10** 災害に強い社会を創るため、支援人材の育成や防災教育、ネットワークの構築をおこなっています。

14 東日本大震災以降、長期に渡り継続的な支援 活動を実施。2016年に地域課題に取り組む 団体を設立しました。

東北への支援



# **MISSION**

# 「お互いさま」を 共に歩む

いつ、どこで起こるか分からない災害は、 時に私たちを被災者にし、 時に私たちを支援者にもします。 自分を守り、大切な人も守る。 そして少し遠くの「あの人」を支えます。 私たちは、被災者や被災地域の回復のために、 その文化や営みに寄り添い、支援者として 自発的に関わる多様な人々の想いを 具体的に"役に立つカタチ"にします。



# **IMPACT**

26ヶ国(海外)

36地域(国内)

これまでに支援した被災地 ※1995年以降のピースボート災害救援を含む

災害ボランティアトレーニング修了者



国連で採択された2030年までの 「持続可能な開発目標(SDGs)」を推進しています。



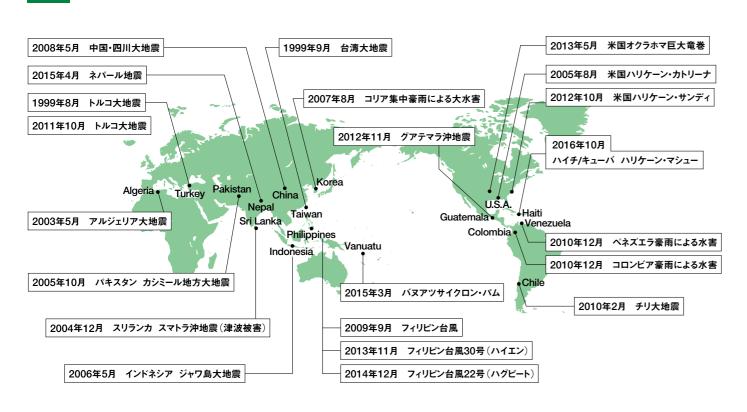


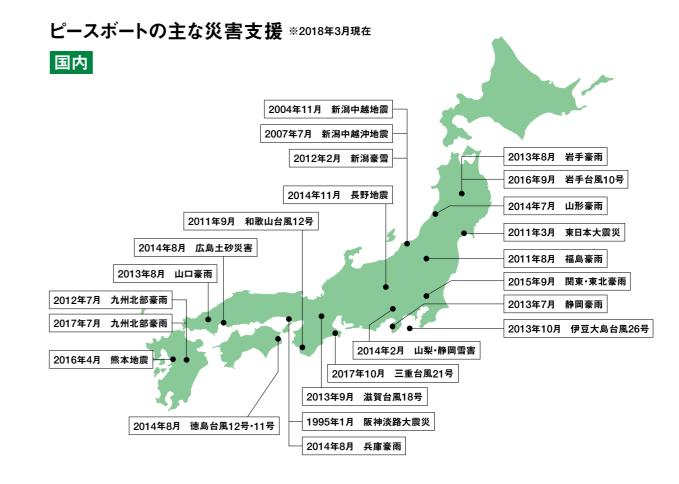




#### ピースボートの主な災害支援※2018年3月現在

#### 海外





その地域の人たちには、

回復力がある

困難な状況にあったとしても、 適切なサポートがあれば、 未来に向かう一歩を踏み出せます。 ひとつとして、同じ災害はありません。 そして、ひとつとして 同じ支援のカタチもありません。 その時、その場所、その人たちに 必要な支援を。

## 3つのチカラで、 被災地を支える

#### **ASSESSMENT**

ネットワークを駆使した情報収集と 直接現場で 被災者ニーズを把握

#### COORDINATION

課題解決力のある 災害ボランティアコーディネート

### **SOLUTION**

あくまで被災者ニーズに合わせた、 多様な支援メニュー



# **ASSESSMENT**

被災地 現地調査 課題把握

支援の決定

## **SOLUTION**

食事支援(炊き出し)

家屋清掃

物資支援

災害ボランティアセンター 運営サポート

避難所運営サポート

仮設住宅支援

コミュニティ形成サポート

支援団体間調整• 連携サポート

地域産業サポート



2017年、夏の訪れを感じられる7月5日の夕方。緑に覆われた豊かな山々が連なる地域が、記録的な大雨に 見舞われました。豪雨は、土砂と共に木々をなぎ倒し家々を押しつぶしていきました。道路は川と化し浸水な どによる住宅被害は2,800棟以上にのぼり、2,000名を超える人々が避難を余儀なくされました。

# SOLUTION [実現したこと]

#### 1.ボラティア受入れの什組みを支える

社会福祉協議会や行政、NPOと連携し、災害ボランティアセンター の運営サポートや家屋の清掃・片付けを行ないました。また、地区の 区会長のサポートと共に現場コーディネートも担いました。

### **IMPACT**

延べ482件で活動 地域・家屋の復旧を支えました。



### 2. 暮らしのスタートアップ

仮設住宅に入居された世帯に対し、家電製品など生活を始めるため の応援キットを寄贈しました。また、コミュニティ形成に向けて、仮設団 地に設けられた集会所に、備品の調達・搬入を担いました。

### **IMPACT**

仮設住宅422世帯 4団地の生活の再開をサポート



### 3. 多様な支援力の最大化

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)へ職員を派 遣し、団体間の支援調整を担いました。また、農業支援として農業組 合の農業ボランティアセンターの立ち上げからサポートしました。

### **IMPACT**

158団体と情報共有し 支援活動につなげるサポート



# 2017年7月6日—12月31日

福岡県東峰村、朝倉市

日別延べ活動人数 669人(78人派遣)



#### 人のつながりが支える災害ボランティアセンター



東峰村社会福祉協議会 柳瀬英造さん

川の氾濫が起き、停電と断水に続き携帯電話も通じなくなりま した。同時に近隣住民や通行中の方など沢山の人々が社会 福祉協議会に避難してきました。とにかくまずは食糧の確保の ため、近隣の方にご協力いただくなど対応に追われました。その 後、近隣社協やボランティア団体の協力のもと災害ボランティ アセンターの設置に向けて動きだしました。災害ボランティアセ ンターの設置と運営は初めての経験で何も分からない状態で した。PBVスタッフの皆さんのアドバイスや運営協力により住 民のニーズに合った活動を行うことができました。沢山のボラン ティアの方々、全国の社協職員、企業や団体の皆さまなど、こ の災害を通して人のつながりが災害復旧を支えているというこ とを身に染みて感じました。

#### 丁寧な聞き取りが温かい場を創る



東峰村仮設団地 和田晴禅さん

被災から1ヶ月後、仮設住宅の入居者向け説明会でPBVス タッフとお会いしました。夏の暑い日に、ニーズの聞き取りや土 砂の撤去など、住民が困惑している中で、黙々と作業する姿勢 に本当に頭が下がる思いでした。仮設住宅に移る時には、家 電製品や生活用品などの調達や設置、集会所の備品も、住民 のニーズをしっかり聞き入れてくださいました。今では、集会所で のイベント・お茶会などには無くてはならない大事なものばかり で、みんな楽しく明るく使っています。もとの生活に戻るまでは何 年かかるか分かりませんが、皆さまから頂いた勇気や元気、温か いご支援を糧に、住民みんながしっかり前を向き、ゆっくりですが 全力で復興へ歩んでいきます。

## 台風21号被害 さらなる被害を未然に防ぐ

2017年10月22日から23日にかけて超大型の台風21号が日本列島に上陸。近畿、東海 地方を中心に5府県へ甚大な被害をもたらしました。三重県では記録的な大雨となり家屋の 浸水被害が発生しました。地元社協から震災がつなぐ全国ネットワークに応援要請があり、 加盟団体であるPBVではスタッフを派遣。浸水家屋の調査を行ない、カビや悪臭、腐食、シ ロアリの原因となる水を含んだ柱や断熱材の対応方法のアドバイスなどを実施しました。

※各被災地での詳しい活動報告書は、HPからご覧いただけます。

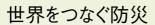
2017年11月9日—12月4日

災害ボランティアセンター運営サポート、 浸水家屋被害状況確認、対応方法アドバイス

94世帯

# 過去の災害に学び、 未来をつなぐ

お互いの命や生活を守るため、 防災・減災を学ぶ機会を提供します。 そして、有益な支援活動が実現できるよう 多様なセクターが連携し協働できる ネットワークを構築します。



·第3回国連防災世界会議in仙台 ·防災・減災日本CSOネットワーク (JCC-DRR)

· "Making Cities Resilient" 災害に強い都市の構築キャンペーン (国連公式パートナー)



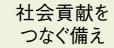
#### 楽しく防災!

・しんじゅく防災フェスタ2016-2018



## 支援をつなぐ ネットワーク

・全国災害ボランティア支援団体 ネットワーク(JVOAD)など 15のネットワーク組織に参画しています。



・社会貢献×防災グッズ Safety bank



### 支援の 担い手を育成

(入門・リーダー・スキルアップ)



# ・災害ボランティアトレーニング



#### 仕組みを支える

災害ボランティアセンター 設置訓練·運営者研修 マッチング体験カードゲーム



・わが家の災害対応ワークショップ ・支援を活かす地域カワークショップ

家族と地域を守る



#### プログラム名 受講者数 実施回数 364人 23回 災害ボランティア入門 **7**<sub>□</sub> 140人 リーダートレーニング 757人 9回 災害VC設置訓練 災害VCマッチングゲーム 483人 13回

1308人 34回 わが家の災害対応ワークショップ 36人 支援を活かす地域力ワークショップ 1853人 19回 講演・イベント

(2017年度)

2回



[新宿区協働事業]





命、生活、

尊厳を守る

・避難所の運営研修

# しんじゅく防災フェスタ2017



2017年9月3日

都立戸山公園・

新宿スポーツセンター

来場

3,200人以上

※PBVは実行委員会事務局として、新宿区の行政・NPO・企業・学校・ボランティアらと協力し、企画・運営に当たりました。

当事者と共に作り上げた大規模な防災イベント。次の大災害は、東京を襲う首都直下地震かもしれません。でも、自分が災害に見舞われる、そんな姿を一人で想像するのは難しいことです。だからこそ、1年に1回、みんなが集まって楽しく学ぶ機会をつくりたい。大人も、子どもも、若者も、外国人も、障がい者も、みんなが楽しく学べる防災・減災イベント。今年は「災害時要配慮者」をテーマに、障がい当事者の方々にもたくさんお越しいただき、一緒に考え、交流ができました。

# SOLUTION [実現したこと]

### 1.誰もが楽しく学べる場づくり

おもちゃ交換と防災体験を組み合わせた子どもに大人気の「イザ!カエルキャラバン!」。英語での救命講習や中国語「わが家の災害対応ワークショップ」。また、障がい体験や視覚障がい者向けの講習などを実施しました。

### **IMPACT**

100名以上の 障がい当事者が参加



#### 2. 多様な組織が協働

起震車やはしご車など特別車両の体験や消防ホースでの消防訓練、NPOや企業、行政機関による多数のブースが建ち並び、様々なプログラムが体験できる1日となりました。

#### **IMPACT**

参加した組織・団体 50



### 3.イベント運営を通じて担い手を育成

当日には高校生や大学生などの若いボランティアが運営に協力し、事前研修を受けてきたボランティアリーダーたちがまとめ役として活躍しました。地域の枠を越えた防災・減災の担い手となるでしょう。

### **IMPACT**

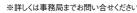
未来の担い手 200名以上





## 災害VCマッチング体験 カードゲーム

被災者の困りごとを迅速に解決したい。災害時に被災された方々の ニーズ(困りごと)とボランティアをつなぐのが災害ボランティアセンター (災害VC)の役割。災害VCには、毎日被災者からのニーズが寄せ られます。多くの個人ボランティアは、災害VCで受付けをすることで 作業を割り振られ、被災者宅や避難所などの現場に向かいます。ニー ズとボランティアのマッチングという機能です。災害VCの運営がス ムーズであれば、現場でのボランティア活動もスムーズになります。災 害VCは社会福祉協議会(社協)が設置・運営を担うことが一般的で す。ただ、全国に約1.900ある市区町村社協に、被災地での経験や ノウハウを持った職員が揃っていることはむしろ稀なこと。実際には、 手探りで災害VCを立ち上げ、毎日発生する目の前の出来事に追わ れながら運営しています。PBVも、避難所サポート、炊き出し、泥かき・ 清掃といった直接的な支援活動のほか、各地で災害VCの運営サ ポートにも関わってきました。PBVで行ってきた経験が役立つならと、 災害VCの運営者に向けた新しい研修ツールを開発しました。時期ご とに被災者のニーズを把握しボランティアを適材適所につなぐ、シュミ レーションをグループディスカッション形式で進めていきます。









## TOMODACHI 災害復興リーダーシップ・トレーニング

「TOMODACHIイニシアティブ」が主催するこのプログラムは、東日本大震災で被害を受けた東北三県の出身の大学生やユース世代を中心に、災害対応や復興のためのユースリーダーシップを学ぶものです。PBVは、他団体とも協力し研修企画や講師として参画しています。6月に、参加した若者たちは神戸を訪れ、語り部から震災当時の話しやその後の復興まちづくりについて学びました。また、9月にしんじゅく防災フェスタに運営ボランティアとして関わり、子ども達に向けた防災教育を実践しました。



12

# 福島子どもプロジェクト









保養から国際交流体験へ。地震と津波、原発事故の影響で、大きな被害に見舞われた福島県南相馬市。 多くの市民が避難を余儀なくされ、子どもたちも突然の避難所生活が始まりました。その後も「外で遊べな い」、「放射能から身を守らなければいけない」、不自由な子どもたちの様子をみて、立ち上がったのは地元の 大人たちでした。「土にふれ、水にふれ、友達と一緒に自然の中でのびのびさせたい」その想いを受けて一 時的な保養として始まったプログラムも、現在では将来の糧となる国際交流体験へと昇華していきました。

ていましたが、津波の被害により養殖のほやは壊滅。ようやくほや養殖を再開した漁師に追い討ちをかけた のは、生産量70%の消費先であった韓国の輸入全面禁止でした。「浜の復興なくして復興はない」「ほや」 ファンによる「ほや」の伝道が広がっています。

### 福島子どもプロジェクト2017・夏

福島のパートナーである「南相馬こどものつばさ」の協力をいただいて、 2011年から毎年実施している本プロジェクト。今年は、南相馬の中高 生11人が、「ピースボート日韓クルーズ PEACE&GREEN BOAT 2017」に参加しました。日本からの参加者500人、韓国から500人、合わ せて1000人が乗船するクルーズでアジア各国を巡ります。覚えたての韓 国語を使いながら、友達を作っていく福島の子どもたち。ロシアのウラジオ ストックでは、地元のボーイスカウトの子ども達とスポーツやダンス、工芸 品作りで交流しました。船内では韓国の友達とソーラン節を披露したり、 南相馬の野馬追について発表したりと、様々なことに挑戦しました。



2016年夏 東アジア国際交流

2015年春 海でつながるアジア

自然と歴史を学ぶ旅

**2014**年春 異文化を体験する

アジア国際交流の旅

2013年春 オーストラリアで学ぶ

「持続可能な社会 とは

2012年夏 福島×ベネズエラ×

ロサンゼルス 音楽交流プログラム

2012年夏 登ろう!

日本一高い富士山へ

2011年夏 アジア3カ国で国際交流

※「福島子どもプロジェクト」は、国際NGOピースボートとPBVが共同で実施しています。

## ほやの伝道師「ほやほや学会|



「ほやほや学会 | は、ピースボートセン ターいしのまきが力を入れているプロ ジェクトの一つ。「ほや」による東北の 振興をミッションに掲げ、漁師や加工

ピースボートセンターいしのまき

いま、三陸の「ほや」が熱い! うま味、甘味、苦味、酸味、塩味の5つの味すべてを持つ「ほや」。独特の風味

で多くのファンを魅了するこの食材が再評価されています。震災前、全国生産量の約80%を宮城県が占め

会社、飲食店、研究者、ほやファンなどとともにほやの認知度 向上と消費拡大を目指すネットワークです。SNSでのほやの 情報、レシピ、イベントなど、ほや好きには見逃せないほやほや の情報をお届けしています。2017年には、ほや養殖が盛んな 宮城県の漁村を訪れるほや尽くしツアーやホヤをとって、さばい て、食べて体験する夏休み子どもツアーを開催。また、30代~ 40代女性対象のほやの食べ方調査、ほやを食して交流を深め るイベントも多数実施しました。フェイスブックのほやほや学会 ページを「いいね!」すると、誰でも気軽に会員になれます。





## 一般社団法人 ピースボートセンター いしのまき(PBI)

東北の地域課題に取り組む団体として2016年に設立され、漁 村留学「イマ、ココ プロジェクト。」、牡蠣のオーナー制度「かき のわ |、震災から学ぶ「視察・交流プログラム |、ほやの認知向 上と消費拡大「ほやほや学会」の4つの取り組みを中心に活動 しています。

986-0822 宮城県石巻市中央2丁目-5-7

TEL 0225-25-5602

WEB http://pbi.or.jp/



# **SUPPORTERS**



2011年3月11日、経験したことのない大きな揺れの恐怖とそれに 続く衝撃的なテレビの映像。直接の被害もないのに打ちのめされ ました。以降も、次々やって来る災害。予想もしない所での大地 震や恒例のような梅雨末期の豪雨災害。命は助かっても過酷な 被災状況に心が折れそうな時、寄り添い支えてくれる人達の存在 にどれほど励まされるでしょうか。そして被災者を支える彼ら自身が 折れてしまわないように、私に出来るささやかな事、PBVのサポー ターは続けていきたいと思います。

恩田康子さん(70代・女性)

PBVの日々の活動はSNSなどを通じ応援させてもらっています。私 は直接、活動自体に参加する事が難しくなった為、インターネットを 使った募金活動に参加させてもらっています。インターネット募金な ら日時や場所を問わずに、PBVの活動に関われると私は考えてい ます。毎月11日にインターネット募金を行うようにしており、2011年 に私自身が見た事、知った事、感じた事を見つめ直す機会にしてい ます。これからもPBVには私達が「何かをしたい」と思った時に架け 橋となる存在として継続してもらいたいと思います。災害の被害を 減らす為の防災・減災活動も合わせて継続して欲しいです。

松村淳一さん(30代·男性)







東京海上日動火災保険株式会社 経営企画部CSR室 高津戸さおりさん

当社がピースボート災害ボランティアセンター(PBV)に出会っ たのは、東日本大震災の後の2011年7月。震災直後は、地震 保険金をお届けするため、地震、津波の被害にあわれた方々の 住宅を訪問し、その被害状況を調査することに専念していまし た。実際に津波の被害を目の当たりにした社員たちは、損害調 査が一段落した頃、今度は生活の再建のためのボランティア としてお役に立ちたいとの思いから、受け入れ先を探し、ボラン ティアのコーディネートを任されたPBVとのご縁で、住宅の泥か き、片づけ等を実施することが出来ました。その後も、社員有志 による寄付制度「Share Happiness倶楽部」の運営委員た ちが寄付先ひとつとして、PBVを選定し、これから発生するかも しれない次の災害への備えとして社員の寄付金を活用いただ いています。保険会社は災害時には、保険金のお支払い手続 き対応を優先するため、即座にはボランティアを行うのが難し い場合があります。そのようなときのためにPBVに確実に役立 てていただける寄付金をお預けできていることは、大変意義の あることだと感じています。



パルシステム生活協同組合連合会 地域支援本部 環境·地域支援部 鈴江茂敏さん

東日本大震災の当時、パルシステムでは石巻市で被災された 皆様への炊き出しを考えていました。炊き出しの情報を集めてい たところ、毎日夕方に石巻専修大学でボランティアの会議が行 なわれていることを聞きつけました。足を運んでみると、大勢のボ ランティアが集まり、翌日の炊き出しの場所や配食数について 打ち合わせていました。その会議を事務局として取り仕切ってい たのは、「ピースボート災害ボランティアセンター」の紺色のビブ スを着た若い女性でした。会議の事務局だけではなく、被災現 場での炊き出しや避難所・仮設住宅への訪問など、多くのボラ ンティアを精力的に支援活動に送り出す様子に、大変心強い 方々だと関心しました。彼らとなら対等なパートナーシップが結べ るのではないかと考え、その後の熊本地震や九州北部豪雨で は、パルシステムから支援金を提供し、PBVからは被災と支援 の現地「生情報」を提供いただきました。今後もよきパートナーと して末永くお付き合いいただければと考えています。

#### ご協力いただいた企業・団体一覧(団体名は略称表記)

ご寄付や物資提供、イベントのご協力など、個人の方からもたくさんのご協力いただきました。お一人おひとりの皆さまに心より感謝申し上げます。

#### 支援活動へのご協力

伊藤園新宿支店/イー・コミュニケーションズ/永徳堂/美味しいふくしま伝え隊/大阪ボランティア協会/風組関東/モンベル/環境省/キャンナス熊本/くまもと友教の会/グラウクス/滅災と 男女共同参画 研修推進センター/小池島田仮設団地/小鳥の森ゴルフパーク/コミサポひろしま/災害NGO結/災害ボランティア支援プロジェクト会議(支援P)/サービスグラント/静岡県ボラ ンティア協会/ジャパングレイス/シャンティ国際ボランティア会(SVA)/新宿区役所/新宿区危機管理担当部危機管理課/新宿区教育委員会/新宿区社会福祉協議会/新宿区町会連合会 /新宿区立障害者福祉センター/新宿消防署/新宿CSRネットワーク/真如苑/真如苑教援ボランティアサーブ(SeRV)/信頼資本財団/スターバックスコーヒー/ステートレス/全国社会福 祉協議会/ソフトバンク/チーム中越/東京YMCA/東京海上アシスタンス/東京海上日動火災保険「Share Happiness倶楽部|/東京災害ボランティアネットワーク/東京土建新宿支部チー ムNAMAZU/東京都公園協会/東京都助産師会 新宿中野杉並地区分会/東京ハンディキャブ連絡会/東京ボランティア・市民活動センター/内閣府(防災担当)/難民支援協会(JAR)/難 民を助ける会(AAR Japan)/西原村社会福祉協議会/日本イスラエイド・サポート・プログラム(JISP)/日本エマソン/日本ケアフィット共育機構/日本財団/日本ファンドレイジング協会(スクール 二期生)/日本防災推進機構/パルシステム生活協同組合連合会/パルシステム生活協同組合パルシステム東京/ハレルヤワークス/被災地NGO恊動センター/美生社/ピースウィンズ・ジャ パン(PWJ)/プラス・アーツ/防災・災害ボランティアかわせみ/みやぎセルブ協働受注センター/目白大学社会学部メディア表現学科/モバイルクリエイト/湯梨浜町立東郷中学校/ラッシュジャ パン/レスキューストックヤード(RSY)/ロッテ/ロバート・ウォルターズ・ジャパン/ADRA Japan/DRT-JAPAN/gooddo/JAPAN KINGDOM BUILDERS/Move4Japan/nagi slow coffee / OPEN JAPAN / PEACE BOAT US / TOMODACHI Initiative / U.S. - Japan Council / World Cares Center / Yahoo Japan / Youth for 3.11 (OGOB) / IP-Net

#### 活動地域でのご協力

アイ電化センター/朝倉市社会福祉協議会/朝倉市商工会/朝倉市役所/朝倉商工会議所青年部/朝倉青年会議所/朝倉ライオンズクラブ/甘木・朝倉消防本部/石巻市役所/石巻市社 会福祉協議会/石ノ森萬画館/石巻NOTE/うきは市社会福祉協議会/エコワークス社員有志/エフコープ生活協同組合/大分県防災活動支援センター/小川電機設備/カジワラ商事/片 延地区自治会/嘉麻市社会福祉協議会/環境財団/北九州市立大学/九州北部水害救援共同センター/グッデイ日田店/黒川復興プロジェクト/小石原焼陶器協同組合/金光教甘木教 会、坂井地区自治会/セコム/多々連地区自治会/玉城町社会福祉協議会/玉城町役場/筑前あざら農業協同組合/東峰村議会/東峰村社会福祉協議会/東峰村役場/杷木復興支援 ベース/被災地医療支援チーム そら/ひちくボランティアセンター/ビーンズさかもと/福岡県環境整備事業協同組合連合会/福岡県社会福祉協議会/福岡県庁/福岡被災地前進支援/福丸 上笠保存会/古江地区自治会/街づくりまんぼう/マルバヤシ電器/みえ防災市民会議/南相馬こどものつばさ/ANGEL WINGS/DRT三重/Rotary/YNF

#### メディアでの紹介

[テレビ] Think Tech Hawaii (米国) / 大田MBC-TV (韓国) / CNN Philippines (フィリピン) [新聞]每日新聞/每日新聞 点字每日/朝日新聞/熊本日日新聞×2回/北陸中日新聞/北國新聞

[雑誌・書籍] ワンダーフォーゲル/Metropolis Magazine/のんびる

[ラジオ]TBSラジオ/NHKラジオ第1「ごごラジ」/NHKラジオ第2「視覚障害 ナビ・ラジオ」/NHKラジオWORLD [ネットメディア] Go! Go! Tohoku!! News/ふらっとBosai

# PEACE BOAT GROUP



ピースボート災害ボランティアセンター 代表理事 山本 隆

毎年発生してしまう風水害は、残念ながら2017年度にも 九州北部などで発生し、大きな被害がありました。被災した 地域に出向き、そこで再建を目指す方たちと出会い、サポー トする機会をいただけたのは、皆さまのご支援があってこそ と日々感じています。PBVの緊急支援体制の維持は、皆さ まから提供いただいたご支援、一つひとつによって支えられ ています。すべての人がお互いに助け合える社会を目指し て、これからもご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 国際NGO ピースボート

ピースボートは1983年の設立以来、世界各地を巡る「国 際交流の船旅 | をコーディネートしてきた非営利の国際 NGOです。世界中の人々との出会いを通じて、国と国と の利害関係を越えた草の根のつながりをつくることを目指 して、これまでに97回以上の航海を行ってきました。世界 200以上の国と地域を巡り、のべ7万人以上の方々が参 加しています。2016年には、国連「持続可能な開発目標 (SDGs)」の公式キャンペーン船として認定されました。



ホームページ http://peaceboat.org/ ※ピースボートは、国連経済社会理事会との特別協議資格を持つNGOです。

#### 一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター

ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)は、東日本 大震災を受けて2011年4月に設立された一般社団法人 です。"国境を越えた災害支援は、地域や世界の平和を つくる"という国際NGOピースボートの想いを受け継いで、 「国内外の災害支援」、「防災・減災の取り組み」、「東 北への支援」を中心に活動を行っています。



#### 2017年度財務諸表

貸借対照表	
[資産の部]	
現金預金	30,882,361
未収入金	6,110,656
商品	354,003
前払費用	293,200
仮払金	0
流動資産合計	37,640,220
資産合計	37,690,220
[負債の部]	
未払金	4,631,884
前受金	783,996
仮受金	0
預り金	213,846
未払法人税等	70,000
流動負債合計	5,699,726

正味財産増減計算書		
経常収益 合計	79,578,434	
寄付金収入	9,195,095	
助成金収入	46,502,922	
自己負担金収入	78,500	
サポート会員会費収入	1,150,000	
その他収入	22,651,917	
経常費用 合計	88,495,947	
事業費 計	83,292,360	
管理費 計	5,203,587	
当期経常増減額	△8,917,513	
法人税	70,000	
正味財産増減額	△8,987,513	
正味財産期首残高	40,978,007	
正味財産期末残高	31,990,494	

※財務諸表の詳細は、公式HPに公開しています。

#### 委託事業

正味財産合計

平成29年度新宿区協働事業「地域防災の担い手育成事業」[新宿区] / TOMODACHIアラムナイ災害復興リーダーシップ・トレーニング2016-2017[U.S-Japan Council] 第3回災害時の連携を考える全国フォーラム[全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)]

31.990.494

#### 加盟団体・ネットワーク

おおさか災害支援ネットワーク/国際協力NGOセンター(JANIC)/国連国際防災戦略事務局(ISDR)Making Cities Resilient:My City is Getting Ready/ジャパン・プラット・フォーム(JPF) /震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)/新宿NPOネットワーク協議会/全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)/東京都災害ボランディアセンター アクションプラン推進会議/日 本NPOセンター(JNPOC)/東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)/防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)/民間防災および被災地支援ネットワーク(CVN)/NGO安全管理イニシ アティブ (JaNISS) / Quality and Accountability Network Japan / The Global Network of Civil Society Organisations for Disaster Reduction (GNDR)

#### 助成元一覧

アジア・コミュニティ・トラスト(ACT)/ウェスレー財団/中央共同募金会/CWS Japan/Act Alliance/LUSH Ltd/UMCOR/Yahoo!基金















# **JOIN US**

すべての人々がお互いに助け合える社会へ、皆さまのご支援をお願いします。

ピースボート災害ボランティアセンターの活動は、皆まさのご支援で支えられています。

皆さまからお預かいした寄付金・募金は被災者・被災地の支援活動や防災・減災教育活動の活動費として大切に使用させていただきます。

#### 最も寄付を必要としている課題

#### 緊急支援

災害発生時に、いち早く 被災者の支援活動を開始するための支援金

現状は災害が発生してから、社会的注目が集まり、寄付行為が行なわ れます。事前の備えとして、災害時に活用できる準備金があれば、より 円滑に早く、現地調査・支援活動を開始できます。まさに被災者の困 りごとに応えて、必要な支援活動を展開するための資金になります。



#### 会員になって応援する

#### サポート会員

[年会費] [個人] 一口5,000円 [団体] 一口100,000円

※二口以上のご協力も可能です。お支払いは、郵便振替・銀行口座・クレジットカード決済からお選びいただけます。

#### 【会員特典】

- ・ニュースレター「START」と年次報告書をお送りします。
- ・各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- ・会員同士の集いの場に、ご参加いただけます。

詳細はこちらから ―

http://pbv.or.jp/support-member

#### 自由な金額の寄付で応援する

#### 今回のみ寄付

定額・連続ではない、その都度、自由な金額でのご寄付もありがたくお 受けしております。お支払いは、郵便振替・銀行口座・クレジットカード 決済からお選びいただけます。

詳細はこちらからhttp://pbv.or.jp/donate/donat

郵便振替 郵便振替口座:00120-9-488841(※下6桁は右ツメ)

口座名:社)ピースボート災害ボランティアセンター

ゆうちょ銀行 ゼロイチキュウ店(019店) 当座 0488841 社)ピースボート災害ボランティアセンター

その他取引先銀行 三菱UFJ銀行、みずほ銀行



2017年度 活動報告書

発行:一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

発行日:2018年8月25日 編集:小林深吾、上島安裕、合田茂広

デザイン:森大樹

写真: Ueno Yoshinori. Chiga Kenji.
Nakamura Mitsutoshi. Suzuki Syhoich. Kataoka Kazushi
URL http://pbv.or.jp/

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A

TEL: 03-3363-7967 FAX: 03-3362-6073 E-MAIL: kyuen@pbv.or.jp URL http://pbv.or.jp/